

代表執行役の異動に関する臨時会見 主な質疑応答

日時： 2023年2月27日（月）17:00～17:30

出席者： 現 執行役社長兼 CEO 平野 耕太郎
新 執行役会長兼 CEO
現 執行役専務兼 COO、経営戦略本部長 先崎 正文
新 執行役社長兼 COO

※一部抜粋して掲載しております

Q：このタイミングで社長交代を決断した背景は。

A：平野：このタイミングになった背景は、米州独自展開と日立グループからの独立という大きな2つの変化があったことが大きい。特に米州独自展開は、扉は開けたが本格化するのこれから。第2の創業にあたり、先崎は社内からの信頼が厚く、米州独自展開の実行計画を進めてほしいという思いがあった。また、次期中計が新たに始まることも理由の一つだ。次期中計は、先崎が先導して社内で練ってきた計画になる。彼がリーダーシップを発揮して練った計画を、彼自身で実行に移してもらいたいという思いがあった。私が会長CEOとして残る理由は、世の中と当社の変化が激しい中で、細かく目配りをして事業運営を行い、次期中計だけでなく、その次を見据えた手を打っていく必要があるためだ。会社全体の戦略・リソース配分は私がリードし、実行部隊は先崎がまとめるという体制が企業価値を最大化できると考えた。

Q：先崎COOに伺いたい。これまでのさまざまな経験の中で、特に大変だった点は何か。その経験を今後の社長業にどう生かすのか。

A：先崎：「最前線がすべての源である」と考え、製造・営業現場を実際に歩くようにしてきた。約25,000人の従業員がいる中、特に海外事業部門からすると日本が遠い、日本にいる我々からすると、お客さまが遠く感じることもある。日立建機はそれほど大きな会社ではなかったため、過去から色々な企業とアライアンスを組みながら事業拡大をしてきた。現場の見える化についても、各社がそれぞれで少しずつ異なるやり方であったため、データ収集に課題があった。これから先、真の意味でのグローバル企業になるためには、データを統合して、お客さまとすぐ話ができる体制にすることや、現場を見える化すること、統一された約束事で進めることが大切である。それを通して最前線のお客さまの声を聴き、日立建機がソリューションプロバイダーになっていきたい。そのためにも、グループ全体とグループ各社の戦略、リソースの戦略を適切に進める必要があり、平野と二人三脚で進めていきたい。

Q：平野 CEO に伺いたい。6 年間で振り返って達成できたこと、今後の課題を教えてください。

A：平野：社長就任時、ディア社との合併のあるべき姿、米州事業の進め方を考えることが最も優先すべき課題だった。社長就任から 1-2 年経ったところで、両社にとって合併解消が最も良い選択と考え、交渉を進めた。米州独自展開の扉は開いたが、この先には青い芝生がある訳ではない。先崎が腕を振るい市場開拓してもらいたいと考えている。

Q：6 年前に平野 CEO が社長に就任した際、バリューチェーン事業を拡大し、KPI として調整後営業利益率 10%を達成すると宣言した。先崎 COO が社長として達成したいことは何か。

A：先崎：具体的な数値目標は 4 月に発表するため、期待いただきたい。現在置かれている状況では、お客さまにソリューションを提供していくことが付加価値になると考えている。当社はメーカーとして、お客さまに機械を提供し、お客さまが地面と戦いながら色々なものを作っていくことをサポートしたい。メーカーとしてハードもきちんと提供した上で、デジタル技術などを活用し、ソリューションを提供していきたい。

Q：ロシア・ウクライナ情勢、資材価格の高騰、カーボンニュートラルへの対応など、さまざまな不透明要素がある。先崎 COO は次期社長として、どのような課題・懸念があると考えているか。また、平野 CEO は会長として、どういった形で先崎 COO をサポートするか。

A：先崎：不確実な時代においては、「判断のスピード」が重要である。現場で起こっていることを捉えるスピード感を強化するため、会社・組織の在り方の見直し、データの取り扱い方法、インフラ拡充など、さまざまな施策を実施していきたい。

A：平野：変化はチャンスであると考えている。変化しているからこそビジネスチャンスがあり、事業を伸ばせる。変化の激しい時代において、スピード感を持って対応するためには、人財やリソース面が重要になる。企業価値を最大化するためには、人財・組織・お客さまとの関係を考えることが重要である。「変化はチャンス」という考えのもと、私は（人財・組織・お客さまとの関係）という基盤をしっかり構築し、方向性を決めて、先崎には事業を運営してもらいたい。

以上